

(資料4)

評価項目	4 予算の配分と研究施設・設備に関すること
当センターの状況 (概要)	<p>予算の推移について、施設管理費にあたる試験研究以外の業務費は、概ね所要額が計上されていることから、横ばいで推移している。試験研究費について、外部資金を含めた総額、県単独分（約1,200万円）ともにここ3年間で大きな変化はない。（ただし、平成24年度予算以降は、東日本大震災の影響が懸念されるところ。）</p> <p>研究に必要な施設・設備の確保について、平成20年度及び平成22年度に国の経済対策により施設、設備整備費が大きく計上され、検査機器等の大幅な更新を行っている。</p>
評価結果/評価の視点	<p>○総合評価 A 適当(2人)・B 要改善(3人)・C 不適当(0人)</p> <p>○評価コメント</p> <p>(1) 業務内容に関する経常的経費（施設管理費等）と政策的経費（研究費等）の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・内容と予算を見ると十分とは言えない状況にあると思われます。県費、外部研究資金など獲得する方法をご検討下さい。・研究機関としての機能を強化するためにはさらなる研究費の増額が望まれる。・経常的経費の獲得が最も重要。その中で調査研究費を増大させること。 <p>(2) 研究に必要な施設・設備の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・21年度に測定・分析機器はかなり充実されている。今後、継続的な施設・設備の拡充・維持が出来るような予算の確保方法を考えておく必要がある。・10年計画があり、それを十分に実行できているため成果に生きています。これは評価します。・施設設備の更新には相当の経費を要することから長期的な計画に基づいて実施することが必要である。・経常的経費（行政検査等）の中で施設・設備を充実させる。
センターの対応方針	<p>研究費の維持・増額については、県費分の確保を図るとともに、共同研究への参加による外部資金の獲得を努めていきます。県費の増額は、県の財政状況や研究テーマの状況を見ながら今後の課題とします。</p> <p>施設・設備の確保については、今後も10年計画に基づき予算要求、更新を図っていきます。</p>